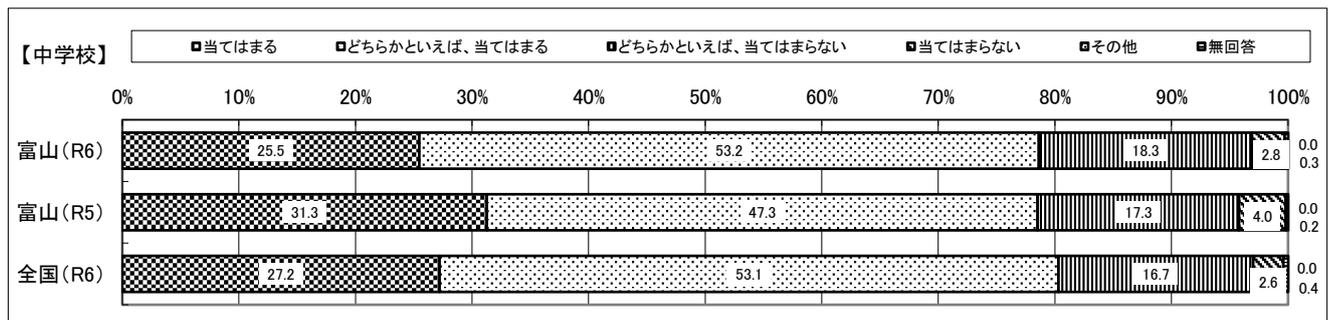
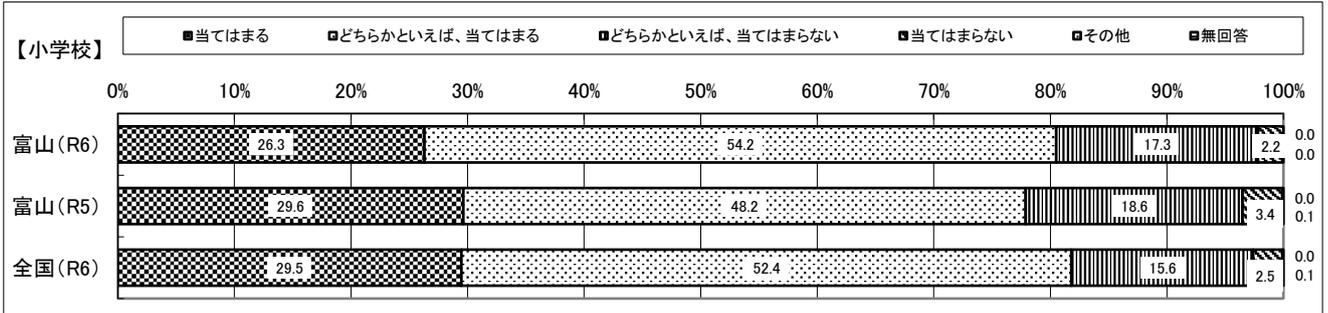


# 令和6年度 児童・生徒質問調査結果の概要と分析

## 1 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況 [質問 29～37]

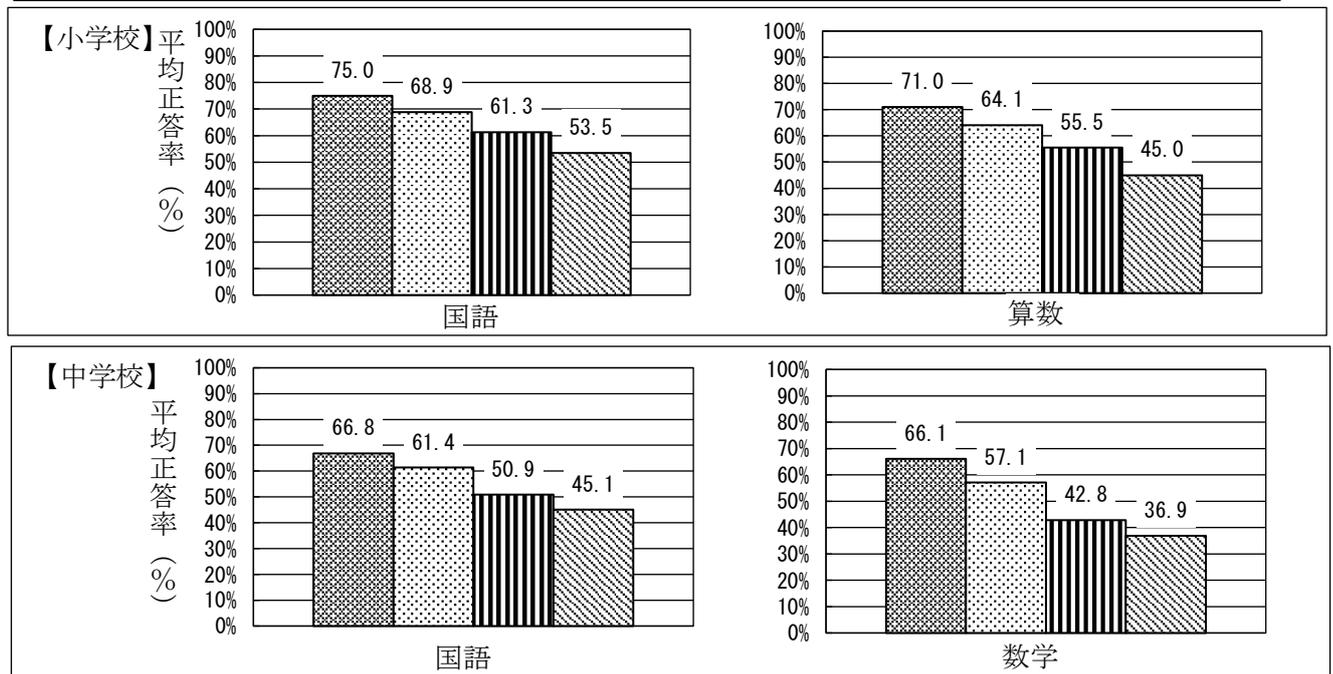
(1) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか（質問小中 30）

- ・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、令和5年度と比べて小学校では、2.7ポイント増加し、中学校では同程度である。
- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と肯定的に回答している児童生徒ほど、各教科の正答率が高い。



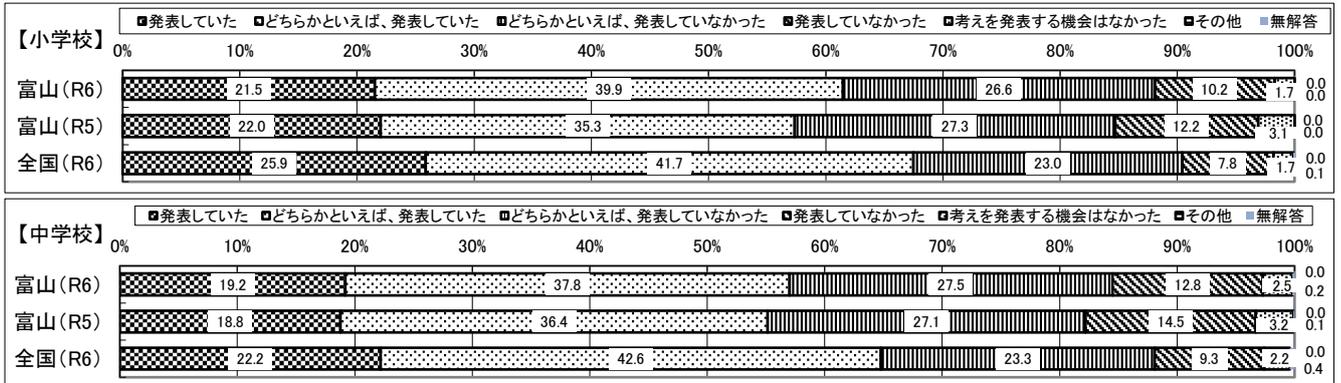
質問小中 30（授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか）と各教科の正答率とのクロス集計

■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない



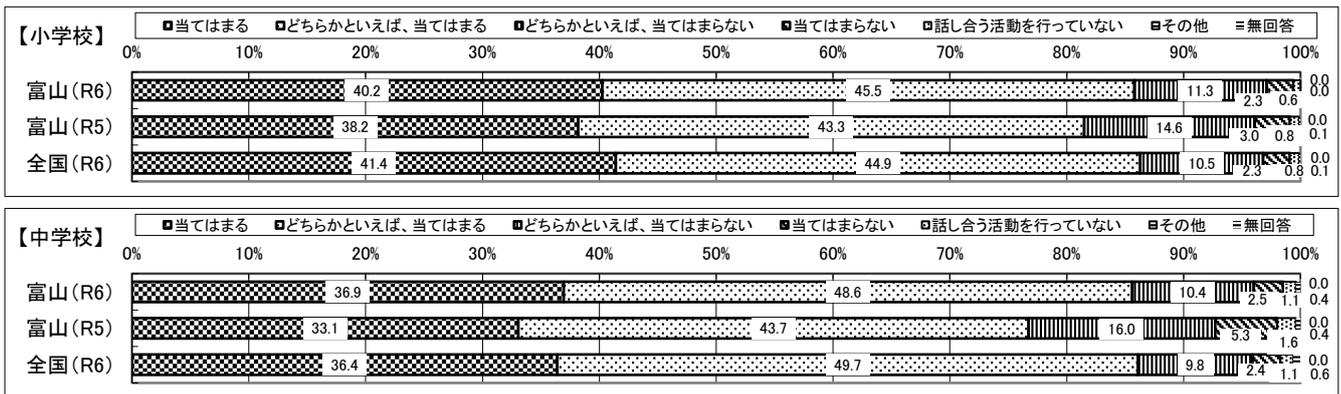
(2) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを公表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか（質問小中 29）

・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、令和5年度と比べて小学校では、4.1ポイント、中学校では1.8ポイント増加した。



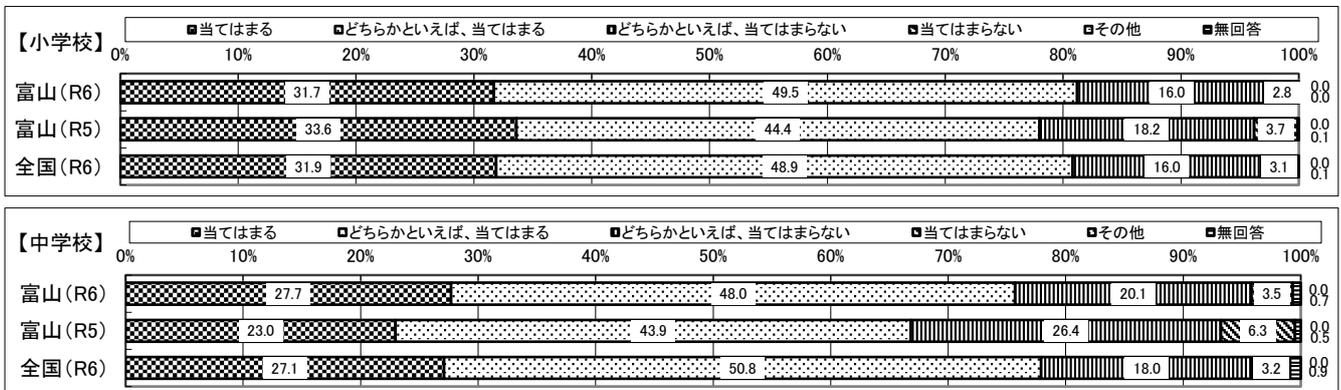
(3) 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか（質問小中 33） \*R5は、下線部が「広げたりすることができていますか」

・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、令和5年度と比べて小学校では、4.2ポイント、中学校では8.7ポイント増加した。



(4) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか（質問小中 34）

・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、令和5年度と比べて小学校では、3.2ポイント、中学校では8.8ポイント増加した。

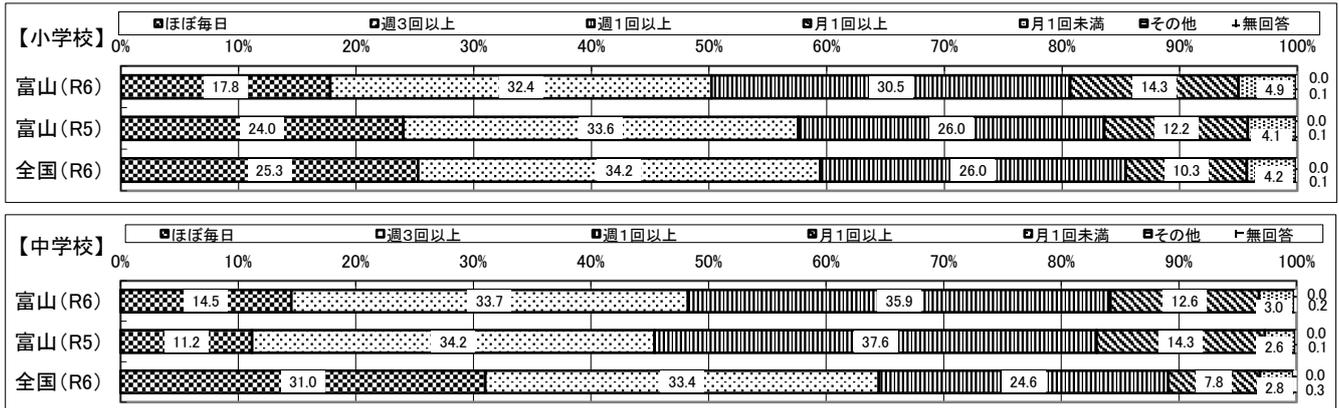


○「とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）」で目指す問題発見・解決能力の育成に向け、児童生徒の問題（課題）意識や学習意欲を高めたり、課題解決の過程において自己調整しながら学習を進めたりすることができるよう、授業改善を継続していきたい。

## 2 ICTを活用した学習状況 [質問 27~28]

(1) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか（質問小中 27）

- ICT機器使用頻度が、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童生徒の割合は、小学校では、令和5年度と比べて7.4ポイント減少し、全国と比べて9.3ポイント低い。中学校は、令和5年度と比べて2.8ポイント増加したが、全国と比べて16.2ポイント低い。
- 授業で、課題の解決に向けて自分から取り組んでいる児童生徒ほど、「ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」とICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答している傾向がみられる。



質問小中 30（5年生までに [1、2年生のとき] に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか）と質問小中 28-5（5年生まで [1、2年生のとき] の学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる）のクロス集計

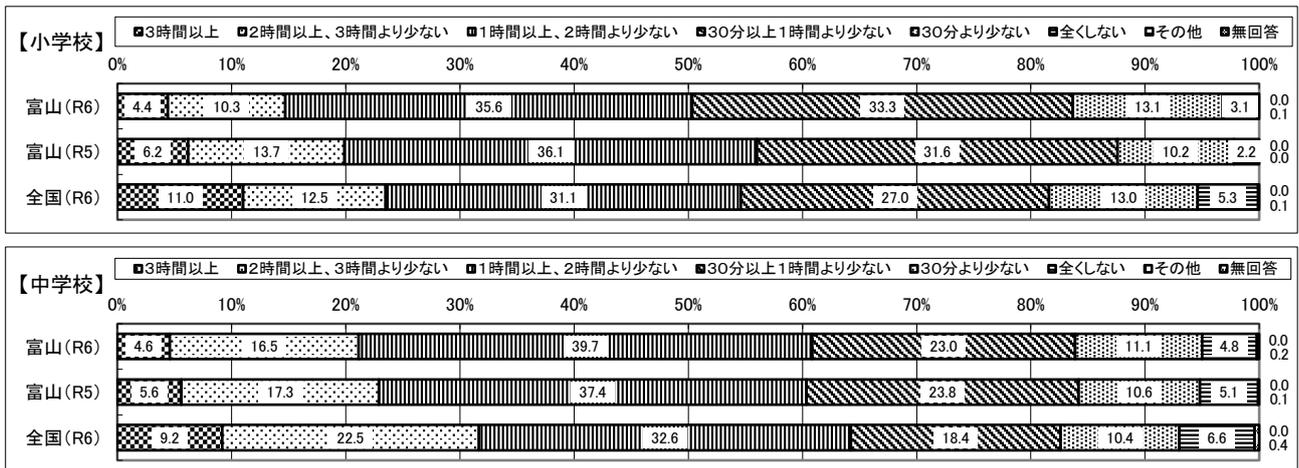


- 各教科等で育成を目指す資質・能力等を把握した上で、ICT機器を主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすことが重要である。ICT機器の活用を「当たり前」のとし、児童生徒自身がICT機器を自由な発想で活用できるよう、クラウドの活用を前提とした環境整備や、個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業デザインが必要である。

### 3 学習習慣、基本的な生活習慣等〔質問 20～24〕

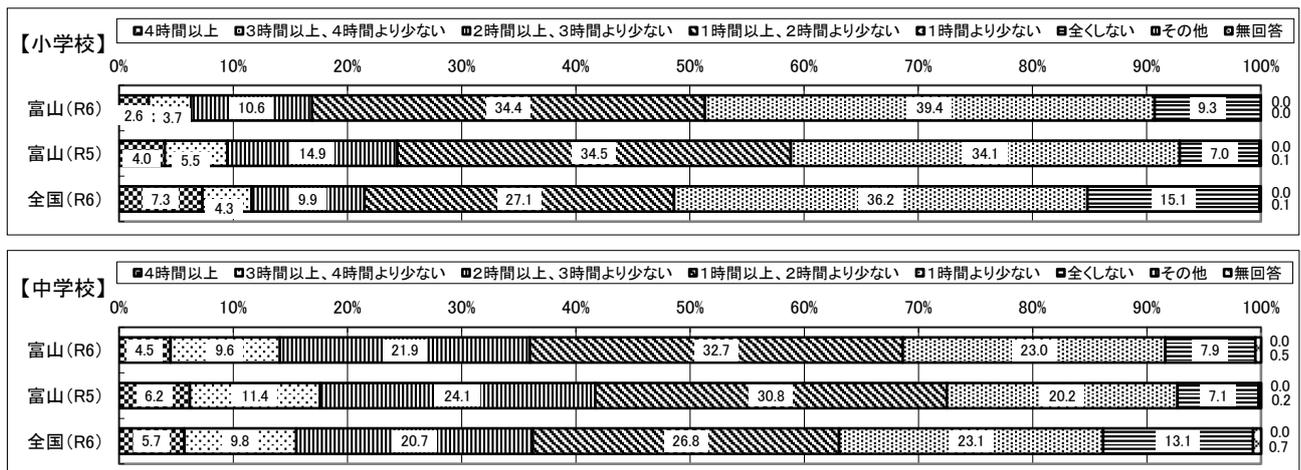
(1) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）（質問小中 21）

・平日の家庭学習の時間が「1時間以上」と回答した児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校では5.7ポイント減少している。全国と比べて、小学校では4.3ポイント、中学校では、3.5ポイント低い。また、中学校で「2時間以上」と回答した生徒の割合は、全国と比べて10.6ポイント低い。



(2) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）（質問小中 22）

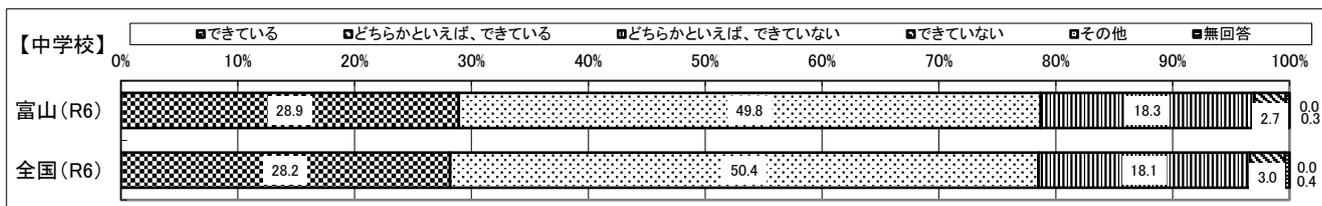
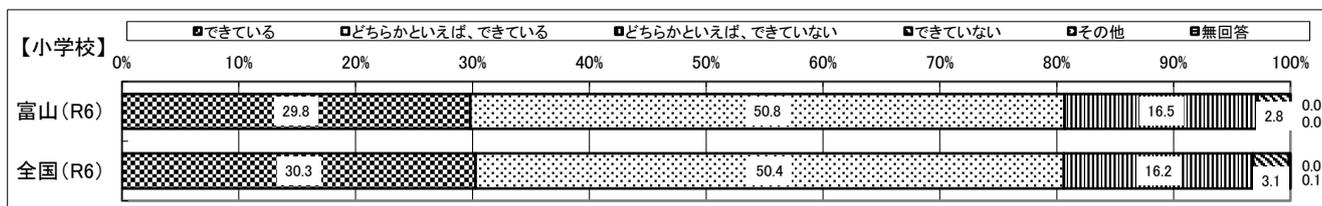
・休日の家庭学習の時間が「1時間以上」と回答した児童生徒の割合は、令和5年度と比べて小学校では7.6ポイント、中学校では3.8ポイント減少しているが、全国と比べて、小学校では2.7ポイント、中学校は、5.7ポイント高い。



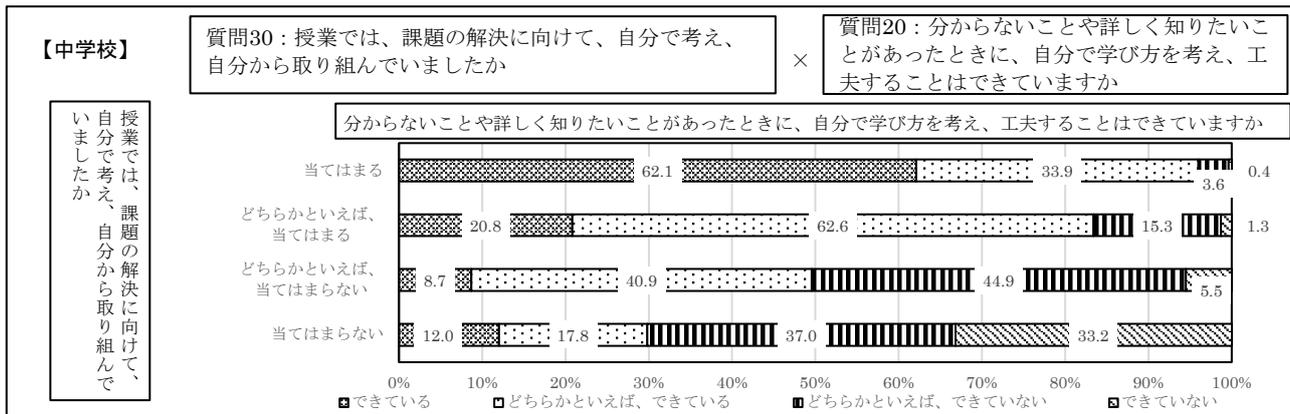
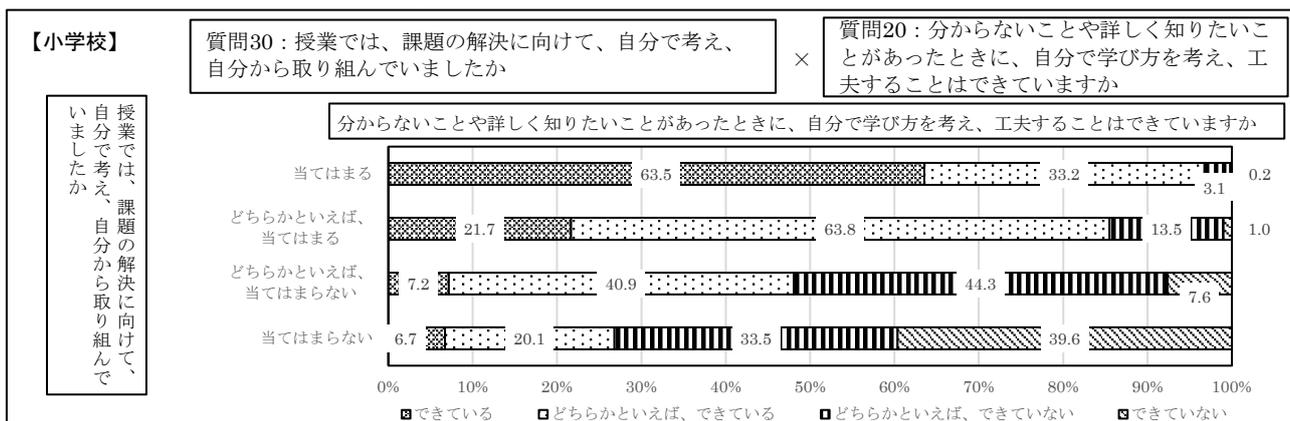
○児童生徒の学びに向かう力を高める授業づくりを通して、家庭学習につなげることや、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方の指導をより一層充実していく必要がある。また、家庭での生活や学習について保護者と一緒に考えることができるよう、保護者用リーフレット「家庭学習のすすめ」「学校、家庭、地域で育てよう とやまっ子！」等の活用を通して、家庭との連携を充実させることも大切である。

(3) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか（質問小中 20）

- ・「できている」「どちらかといえば、できている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校、中学校でいずれも同程度である。
- ・授業で、課題の解決に向けて自分から取り組んでいる児童生徒ほど、「自分で学び方を考え、工夫することができている」と思っている傾向がある。



質問小中 30（授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか）と質問小中 20（分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか）のクロス集計

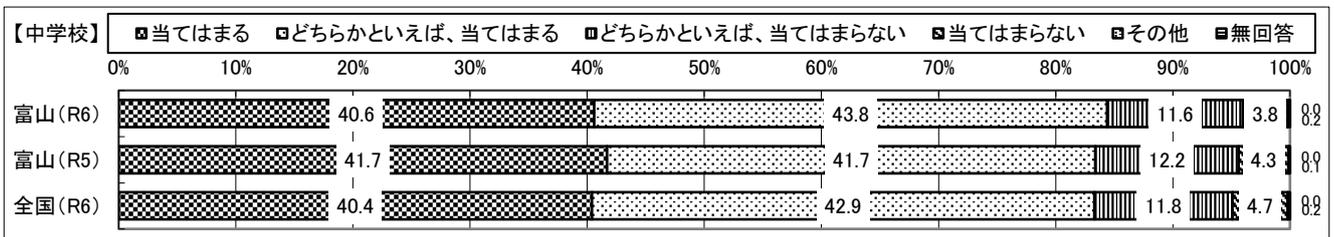
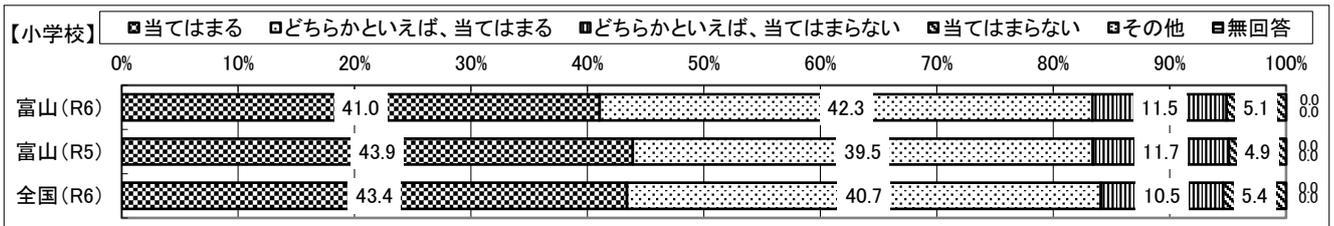


○主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善の推進により、自ら思考し、判断・表現する機会を充実したり、児童生徒一人一人の学習進度や興味・関心等に応じて教材や学ぶ方法等を選択できるような環境を整えたりするなど、自立した学習者の育成に向けた取組を進めていく必要がある。また、児童生徒の自分で考え自分から取り組むという主体的な学びが更に深まるよう、自分で学び方を考えたり、工夫したりする学習方法についての指導の充実を図ることも大切である。

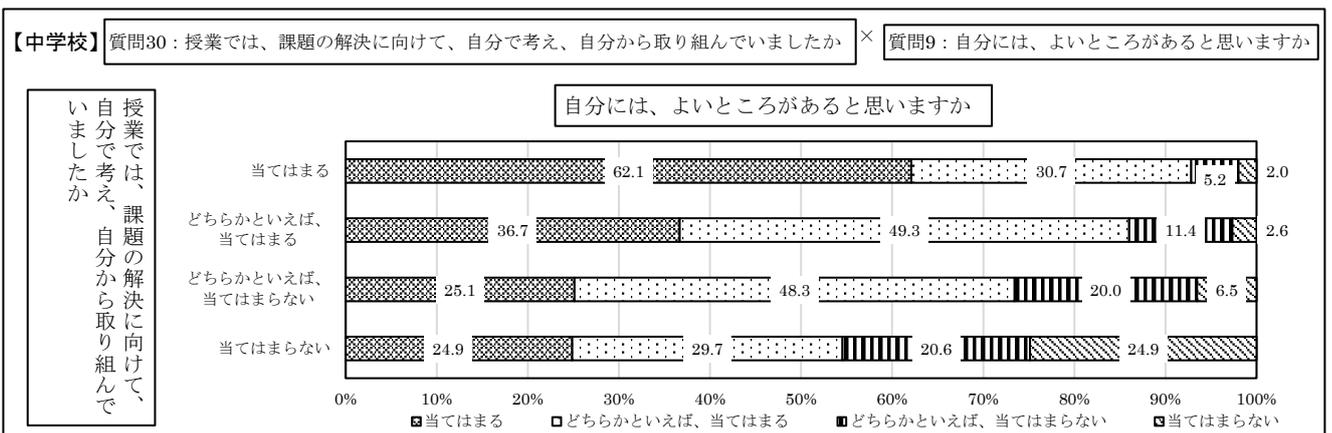
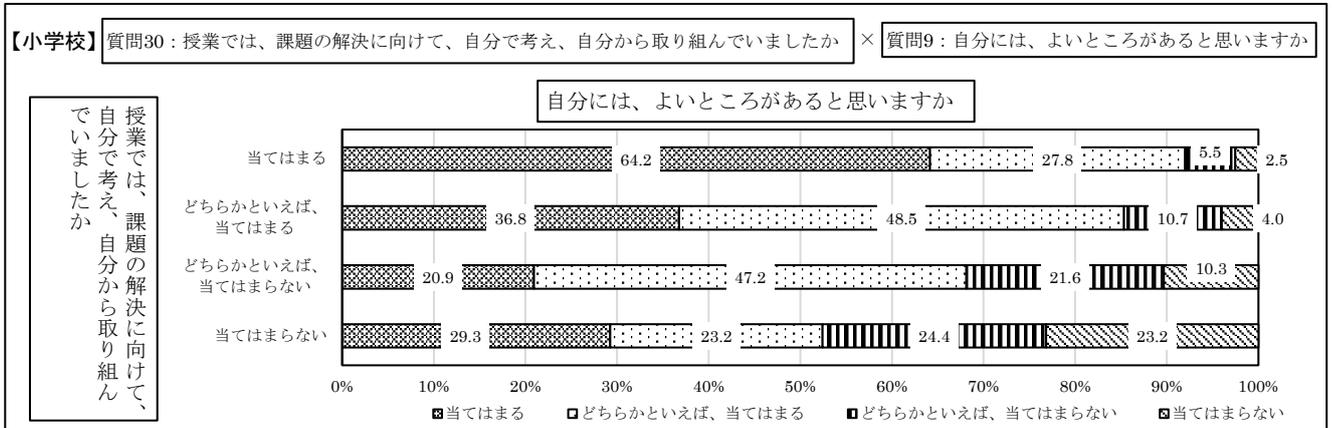
#### 4 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感 [質問9～19]

##### (1) 自分にはよいところがあると思う (質問小中9)

- ・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で同程度、中学校で1.0ポイント増加した。
- ・授業で、課題の解決に向けて自分から取り組んでいる児童ほど、「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合が高い傾向がみられた。この他にも自己有用感に関する複数の質問があり、同様の傾向が見られることから、自分で考え自分から取り組むという主体的な学びと自己有用感には、関係があると考えられる。

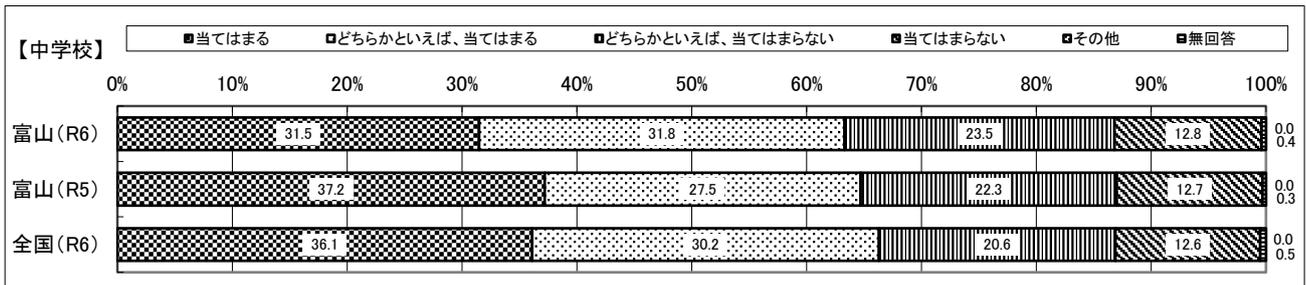
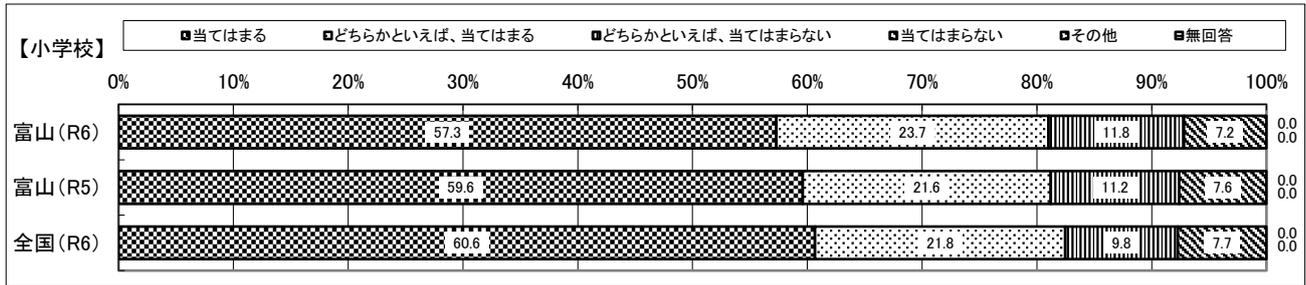


#### 質問小中30 (授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか) と 質問小中9 (自分には、よいところがあると思う) のクロス集計



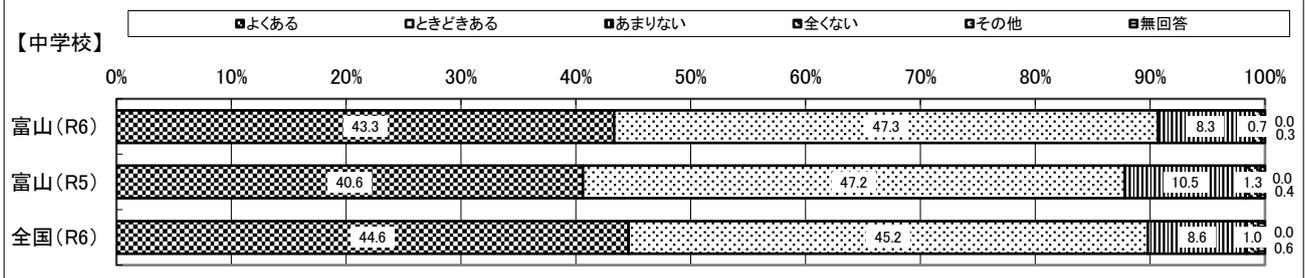
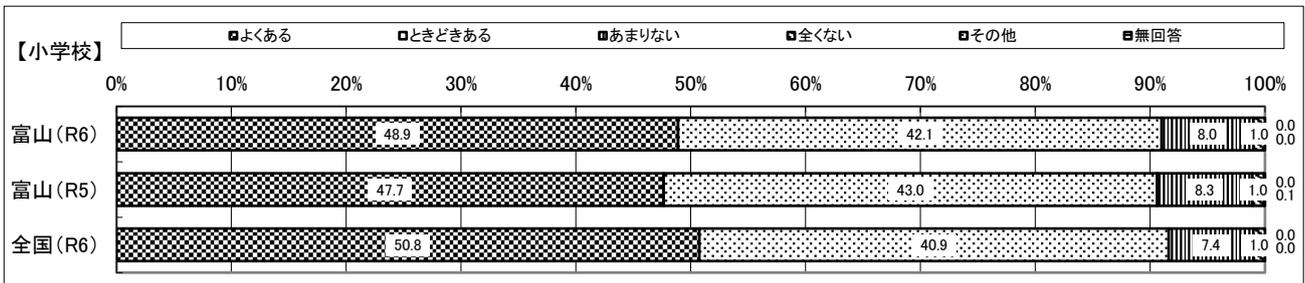
(2) 将来の夢や目標を持っていますか（質問小中11）

・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校で同程度、中学校で1.4ポイント減少した。



(3) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか（質問小中19）

・「よくある」「ときどきある」と回答した児童生徒の割合は、令和5年度と比べて、小学校では同程度、中学校では2.8ポイント増加した。



- 主体的・対話的で深い学びを通して、児童生徒が多様な他者と協働する楽しさや成就感を味わい、自分らしさを発揮できるようにすることが大切である。
- 児童生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、資質・能力を身に付けていくことができるよう、キャリア教育を効果的に展開していくことが必要である。
- 社会の価値観が多様化する中、学校教育においてもウェルビーイング（心も身体も社会的にも「満たされた状態」、実感としての幸せ等を表す）の向上を目指し、子供たちが自己実現に向けて主体的に自己決定する教育を家庭や地域とともに実践することが重要である。